

南無ちゃんのブログ 2022年8月

目次

8月1日	鮎釣師の日焼け.....	2
8月2日	中生のモモ(白鳳)はほぼ全滅.....	2
8月3日	防除⑧&アナグマ捕獲.....	3
8月4日	アナグマ対策は無効だったのでモモを収穫.....	4
8月5日	今日もアナグマを2頭捕獲.....	6
8月6日	緊急防除 コナカイガラムシ対策.....	7
8月7日	お寺の掃除と花筒の準備.....	8
8月8日	ピオーネの生育状況.....	8
8月9日	吉野川遠征.....	9
8月10日	吉野川遠征2日目.....	9
8月11日	共同作業(草刈り)・お宮の掃除・狸捕獲.....	10
8月12日	ハムフェア2022.....	11
8月13日	オトリ籠の製作.....	11
8月14日	ブドウの状況.....	12
8月15日	サビ病.....	14
8月16日	第2次吉野川遠征 初日.....	14
8月17日	第2次吉野川遠征 撤収.....	15
8月18日	ハイエースのリアハッチストッパー.....	15
8月19日	高津川遠征初日.....	18
8月20日	高津川のモクズガニ.....	19
8月21日	高津川は増水&濁流.....	20
8月22日	無線小屋周辺の草刈り.....	21
8月23日	ブドウの試食.....	21
8月24日	第2次高津川遠征 初日.....	23
8月25日	第2次高津川遠征 サラバ.....	24
8月26日	第2次高津川遠征 本流.....	24
8月27日	第2次高津川遠征 撤収.....	24
8月28日	穂先を折ってしまいました.....	25
8月29日	アナグマの仕業か?.....	26
8月30日	ブドウ収穫前のデスクワーク.....	27
8月31日	ピオーネの色比べ.....	27

8月1日 鮎釣師の日焼け

今年3回目の九頭竜川遠征に幕を閉じて、夕方、永平寺温泉・禅の里で垢を落とした後、まじまじと鏡に映った自分の顔を見ると、しっかり日焼けしているのがハッキリわかりました。パンダの目の周りは黒いのですが、鮎釣師の目の周りは白くなっているのです。パンダというよりは、水中メガネの跡がクッキリついているようです。

目を守るためと、川の中を歩き回る時に水中の石がわかりやすいように、偏向サングラスをしているので、目の周りは日焼けし難いのですが、帽子のツバで直射日光は遮られても水面で反射する光で顔が日焼けします。会社勤めの若い人などは、日焼けを避けるために顔全体を覆うプロテクターをしていらっしゃると思いますが、私の場合日焼け止めクリームも塗らずに露出させているので、良く焼けました。

下手でも鮎釣師の顔になってきました。

8月2日 中生のモモ(白鳳)はほぼ全滅

今朝家に着いた後、洗濯ものなどを片づけてから直ぐにブドウ園に行ってみました。妻から電話では聞いていましたが、中生のモモ(白鳳)が何らかの野生生物に荒らされていました。急いで収穫しましたが、まともな果実は20個程でした。多くのモモが①整理落下していたり、②袋の中で成長せずに腐っていたり、③傷があり傷の処から腐り始めていたりで、袋掛けは150以上したのに残念です。



原因は、白鳳の場合、双胚果の見分けが難しいのか袋掛け後に生理落果する割合が多かったことや、鮎釣りに出かけていて、収穫適期を逃がしてしまったことがあります。一番の原因はアナグマのようです。アナグマはモモの樹に登って実を落とし、食べたと考えられます。当初、犯人はカラスかと思いましたが、違ったようです。

今年、身太りも良く、日照にも恵まれたので、割りと良い桃ができたのに残念です。晩生の「おかやま夢白桃」は、まだ熟れてない事もあって、被害にあったのは僅かです。アナグマは美食家だと聞いているので、流石です。熟したモモから食されたようです。おかやま夢白桃は、8月10日頃に完熟し収穫適期を迎えるので、今度はしっかりと対策して収穫したいものです。

8月3日 防除⑧&アナグマ捕獲

午前5時半起床で防除作業をしました。ピオーネとシャインマスカットおよび安芸クイーンに、アピオンE(1000倍)+ムッシュボルドーDF(500倍)+コロマイト(2000倍)の薬液を400リットル調整してSSで散布しました。その後、追加で200リットル調整して散布しました。安芸クイーンには、SSの手打ち機能で散布しました。散布後、SSを高圧洗浄機で綺麗に洗車すると9時半を回っていました。



モモをアナグマに取られてしまったので、なんとか懲らしめてやりたいという一念で、昨夕罝をしかけていました。今朝点検すると、見事にエサ取りされていました。あそこに行けばエサがあるという図式がアナグマの脳裏に焼き付いているようです。昨夕の罝のセッティングは私の方にも問題がありました。柔らかいモモをフックに掛けていたので、夜中に落ちたか軽い力で取れたかして、罝のトリガーが起動することなく、まんまと食べられてしまったのです。

そこで、今度は、少し硬めのモモを罝のトリガーにセットしていたところ、夕方チェックすると、なんと2つの罝の両方に今年生まれたと思われる子供のアナグマが入っていました。昼間にモモを食べにやって来たようです。少しは、モモの仇討ちができたような気持ちになりましたが、まだまだ本命の親アナグマを捕るまでは安心できません。(私は、町から有害鳥獣を捕獲する許可を得ていますので、合法的にアナグマを駆除しています。)



8月4日 アナグマ対策は無効だったのでモモを収穫

昨日、急遽、もう1本のモモの樹をアナグマから守るためにワイヤーメッシュとネットで囲いました。今朝、確認しに行くと軽ーくかいくぐってモモを召し上がっていらっしゃいました。これ以上、追加の対策をしても無駄だと観念して、完熟とまでは行っていませんが、全部収穫することにしました。これぞ、究極の対策とも言えるでしょう。



アナグマに引っかけられたモモや割れたモモなども一緒に収穫しました。これらのモモは、アナグマのエサとして活用する予定です。収穫したモモは、大型の冷蔵庫に入れて追熟させた後に食べるつもりです。



昼間は暑いので、昼寝をしています。夕方、ブドウ園に作業するために行ったついでに罠をチェックすると、昨日よりは少し大きめでアナグマらしい毛並みのヤツが罠に入っていました。



これで合計4頭のアナグマを捕獲したので、ブドウの収穫期を前にして、少しは枕を高くして寝ることができそうです。しかし、もう少し大きな親玉のアナグマが居る筈なので、暫くの間、罠をセットして駆除していきたいと思います。

8月5日 今日もアナグマを2頭捕獲

今朝、草刈りをするついでにブドウ園に行って罠をチェックすると、1つの罠は転倒していて食い逃げされていましたが、もう一つの罠にはアナグマらしい体系の成獣が入っていました。



食い逃げされた罠のトリガーは外れていましたが、その瞬間にアナグマが暴れて罠が転倒してしまい、かんぬきが掛からない状態で横倒しになったようです。そのためにまんまと罠から抜け出すことができたと考えられます。かんぬきがちゃんと掛かっていたら横倒しになっても大丈夫な筈なのですが残念です。次回からは、箱罠が転倒しないように、鉄筋棒などで固定するようにしたいと思います。



夕方の作業ををするために、5時前にブドウ園に行った時に、朝設置しなおした罠をチェックすると・・・またまたアナグマが掛かっていました。今日は朝と夕に1頭ずつ・・・合計2頭を捕獲しました。これで、累計6頭です。



7月上旬に赤磐市の知人から早生のモモを分けて貰って、アナグマのエサとして捕獲を試みた時には、全く取れませんでした。エサ取りさえされず、無視された格好でしたが、今回は余程餌付けが徹底できていたのか、4日連続で合計6頭のアナグマを捕獲することができました。今夕も仕掛けをしました。まだまだアナグマ捕獲作戦は続きます。

考えようによれば、アナグマによって白鳳がほぼ全滅だったのは良かったのかもしれません。お陰で、必死になってアナグマ退治をしたために、本命の販売用ブドウの収穫期を安心して迎えることができそうです。

8月6日 緊急防除 コナカイガラムシ対策

昨日、シャインマスカットの脇芽の切除作業を行っていたところ、白っぽい長さ1cm位のマークのようなものを新梢の途中で見つけました。途中と言ってもどちらかと言えば先端に近い部位です。写真の撮影を試みましたが、手持ちのデジカメではピンボケしてうまく撮影できませんでした。指を伸ばして触ろうとすると、何かがピョンと飛び跳ねたような感じがしました。どうよの白っぽい箇所を何か所か見つけたので、注意深く観察すると・・・どうやら虫のようです。長さは5mm位です。

帰宅してネットで調べたところ、コナカイガラムシらしいことが分かりました。これは大変です。昨年は、コナカイガラムシの被害はほぼゼロでしたが、一昨年は、黒くなって(コナカイガラムシの糞らしい)いた房10位がありました。そのために、昨年はスタークルを幹に塗布するという対策をしましたが、今年はずませんでした。

そこで、緊急防除ということで、モスピランの2000倍液を150リットル調整して、384平方メートルのシャインマスカットの棚だけにSSで散布しました。

8月7日 お寺の掃除と花筒の準備

今日は朝7時からお寺の掃除でした。暑い日だったのに正午までの4時間の労働奉仕でした。檀家が総出で掃除をするわけではなく、檀家の中で地区ごとに総代という世話役だけなのですが、3年前から総代になっています。

午後からは休憩の後、お盆中お墓に花を供えるための花筒を作りました。夕方から始めたので、18時頃には蚊が出てきたので止めました。残りは明日の作業とします。



8月8日 ピオーネの生育状況

今朝、ピオーネの脇芽を切除する作業をしていたところ、袋掛けするのを忘れていたと思われるピオーネの房を発見しました。なかなか粒張りも良く、色付きも今の時期としては良い色をしています。収穫までには後一月ほどもありますので、更に黒さを増してくるでしょう。



今年は、硬核期である7月中旬の最低気温が20℃を下回っていたので、色付きは良いだろうと

期待していました。心配の種は、水です。此処の処全く降雨が無い状態が続いているので、ゲリラ豪雨は嫌ですが、夕立くらいは大歓迎です。

8月9日 吉野川遠征

午前1時に目覚めたので、トイレ行くついでに起床して、高知県立川PAまでワープしました。この間約2時間。立川PAで5時頃まで仮眠して、道の駅大杉に行きました。ここでも暫く散歩をするなどして川の様子をみました。7時頃にオトリ屋さん(木村)に電話して、オトリを確保しました。ついでにファミリーマートで日券も購入しました。オトリさんは親切に穴内川の専用区や立川川の専用区についても案内までしてくれました。吉野川は初めてなので、土佐町の道の駅にまで行って、地蔵寺川も見ました。川に入るための適当な駐車場が見当たらず、入川は断念しました。

本流筋を見て回った結果、JR豊永駅近くの瀬が入川も簡単そうだし、実際に釣り人の姿が確認できたので、ここに入りました。時刻は9時半を回っていました。水温は21°C前後で、冷たさを感じる水温でした。水はクリアなのですが、肝心の鮎は中々釣れません。辛抱に彼方此方歩き回って、午前中の釣果はやっと1尾でした。

徳島から来られたという二人連れの方に話を聞くと、やはり釣れ方は渋いとのこと、午後からはホームグラウンドに帰るとのことでした。徳島の吉野川は、今年は良く釣れているとのことだったので、私も一緒にさせていただきました。途中、立花釣具店で年券とオトリを仕入れて、三好市の釣場に連れて行ってもらいました。

釣場で竿を出すと、5分もしないうちに22cm位の良型の鮎が掛かりました。良いペースで5尾位釣った時に、突然の夕立になりました。激しい夕立だったので、釣りにならず陸に上がりました。夕立が通り過ぎるのを待って、6時過ぎに再び竿を出しました。此処には鮎が付いているようで、2尾掛かったところで、午後7時になったのでおしまいになりました。

なかなか良い場所を教えてくださいました。大夕立が降ったお陰で、途中で泥濘があって、脱出できるかどうか微妙だったので、明日も同じ場所で釣ることにして、ここで車中泊することにしました。

8月10日 吉野川遠征2日目

昨夕の大夕立で、車を止めていた場所の進入路がぬかんるんでいて脱出し難そうだったので、その場所で一泊しました。食料と燃料はあるので大丈夫です。

大夕立の後だったので、水位がどの程度上昇するのか見当もつかないため、昨日釣った鮎は全部締めてしまいました。そのため、朝一番から慣れないコロガシで罎を捕ることを試みましたが、1時間やってもダメだったので、舟で釣っている地元の方に罎を分けて貰いました。やはり友釣りが面白いです。

四国三郎吉野川というだけあって、中流域の三好市あたりに来ると川幅は広くなり、釣り人はまばらです。九頭竜川に比べると水温が高めですが、それはそれでメリットかもしれません。今頃は、水温が低めの方が避暑としては好ましいのですが、8月下旬や9月ともなると、水温が低いのは寒いということになってしまうのですが、その頃吉野川は丁度いい加減になるでしょう。



釣れた鮎のサイズは最大のもので、25.5cmでした。九頭竜川では中々尺鮎に巡り合えませんが、ここでは8月末にもなれば尺鮎に出会えるかもしれません。我が家からは100km位なので2時間ちょっとで移動できます。今年の吉野川は魚影が濃いということなので、また行って見たいと思います。

8月11日 共同作業(草刈り)・お宮の掃除・狸捕獲

今日は山の日で、祝日です。それに合わせて、自治会の共同作業(草刈り)とお宮の掃除がセットされていました。それが無ければもっと鮎釣りをしていたのですが…残念です。朝8時頃から草刈りに参加しました。今日は曇り空でしたが、やはり残暑厳しい日でした。

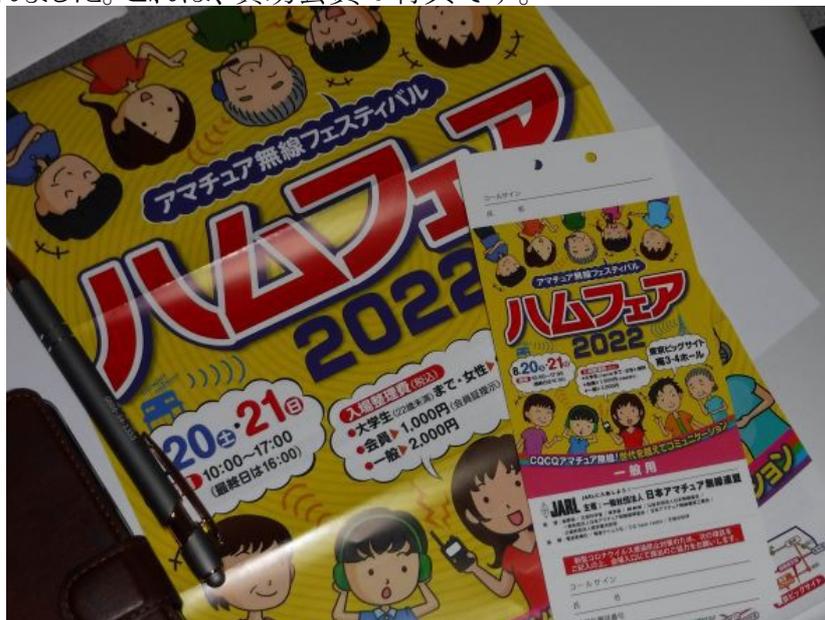
昨日、一昨日と留守にしていたので、モモの樹の下に仕掛けていた罠を見回りに行ったところ、獣が1頭かかっていました。先日からかかった獣は全部アナグマだと思っていましたが、図鑑をよくよく見ると、タヌキが混ざっていたようです。今日のは小さなタヌキです。



8月2日から罨にかかった獣の写真を見ながらもう一度分類してみたところ、タヌキが4頭、アナグマが4頭となりました。

8月12日 ハムフェア2022

今年はコロナの制限も無く、「2022 ハムフェア」は予定通り開催されるようです。本日、JARLから入場券が郵送されました。これは、賛助会員の特典です。



どなたか、このブログをご覧になっている方で、ハムフェアに行く予定のある方は、メール・電話などでご連絡いただければ入場券(1枚限り)をプレゼントします。私は、4回目コロナワクチン接種を8月21日に予約したこともあり、行く予定はありません。但し、九頭竜川に向けて15日の夕方には家を発つ予定なので、それまでにご連絡ください。

ちなみに、大学生(22歳未満)まで及び女性は入場無料・会員は1000円、非会員は2000円の入場料らしいです。

8月13日 オトリ籠の製作

九頭竜川に置いてきたオトリ籠が流されてしまったようなので、次回、九頭竜川に遠征に行くためにオトリ籠を製作しました。材料は、①コンテナ 628円、②掛金 358円、③丁番 178円と手持ちのコンパネとカラースプレー(黒)です。

まず、コンテナの内部をサンドペーパーで荒らして傷付けます。その上にカラースプレーで黒く塗りました。シマノのオトリ缶などは黒く塗ってあるので真似しました。鮎は黒い方が安心するのでしょうか？

次に、コンテナの取っ手(提げるために手を入れるための凹みの部分)から鮎が逃げないように、コンパネの端切れを適当なサイズに切ってコーススレッドで固定しました。更に、塞いだコンパネも黒く塗りました。

コンテナの上の部分に蓋をするために、コンパネをコンテナに合うように切り出しました。更に、コンパネの内側をスプレーで黒く塗りました。



コンテナの蓋の部分に扉を付けるために、ヒンジ(丁番)と掛金を取り付けます。この時、コンパネを3つの部分に切断してしまわないで、切れ目を入れて、少しの部分で接続したままにしておきました。この状態で丁番と掛金をねじ止めしました。コンパネで作った蓋をコンテナにコーススレッド(木ネジ)で取り付けた後で、手鋸を使って接続部を切断しました。

8月14日 ブドウの状況

今日はお盆なので、草刈りなどは控えて大人しくしていました。それでもブドウ園に行ってブドウの様子を見てきました。今年は、安芸クイーンは、今までで一番着色が良くて良い感じに仕上がっています。今後、収穫までに続けて雨が降って土壌中の水分量が急激に増加すると裂果してしまうので心配です。



ピオーネは7月10日～20日頃の最低気温が低めに推移したお陰で、着色は全般的に良さそうです。



シャインマスカットは、降水量が少なく水不足で、池が枯れてしまったので灌水できなかったため、少し玉太りが悪そうです。他の品種よりも遅咲きなので、これから収穫までの1か月の間成長してくれることを願っています。



8月15日 サビ病

ブドウを栽培していて、毎年サビ病に悩まされています。今年は、袋掛けを終えてから早々にサビ病対策の予防(ボルドー液)をしました。その甲斐があって、サビ病の発症を幾分抑えることができたように感じています。しかし、今年の夏は雨が少なく、こういう年はベト病よりもサビ病が発症しやすいようです。このことは、文献にも記されています。

この文献によれば、サビ病はアワブキ属の植物とブドウの間で伝染環が形成されるというのです。我が家のブドウ園は山に囲まれているので、アワブキの樹が近くにあるのかもしれませんが。今年のオフにはそれを見つけて伐採したいものです。

サビ病に感染したブドウの葉の裏側には孢子がびっしり着いて、葉がサビているように黄色くなります。こういうのを放置しておく、園全体にまん延してしまう恐れがあるので、このような葉は切除して焼却しました。しかし、それだけでは安心できないので、予防効果があるというボルドー液を散布しました。ボルドー液の成分は、硫酸銅と消石灰の混合溶液で、約120年前にワインの産地として名高いフランスのボルドー地方で発明されました。私達が、ブドウを栽培できるのは、先人達のお陰だと感謝しなければなりません。



8月16日 第2次吉野川遠征 初日

お盆明けから九頭竜川に行きたかったのですが、北陸道の一部が災害のため通行止めになっているので、吉野川にやってきました。

四国三郎吉野川(徳島県三好市)は我が家から100km強と近場でかつ川幅が広いので九頭竜川と同様に釣り人の密度が低くキャンプ(車中泊)にも適しているので気に入っています。

今回は、娘婿と一緒に。娘婿は、日頃海釣りをしてはいますが、鮎釣りは初めてです。タックルは、予備品で一通り揃えることができました。思えば、鮎釣りを始めて15年以上経ちますが、他人に鮎釣りを教えるのは初めてです。教え方が悪かったのか、魚影が薄かったのか、彼の釣果は坊主でした。ほろ苦デビューです。鮎釣りは他の釣りとは違ってビギナーズラックというのは無いので仕方ないでしょう。暑い夏の日には川遊びしたと思えば、それも一興です。

娘婿は酒も程ほどに飲めるし、魚焼き等は得意なので、二人で楽しくキャンプできました。1泊2日の予定で来ましたが、もう1泊しても良いかなあ・・・

8月17日 第2次吉野川遠征 撤収

朝6時に起床し、食事を済ませて7時過ぎに川にオトリが生きているかどうか確認しに行くと、ウとサギの大群が川面から飛び立つのを目撃しました。ウは少なくとも40羽位はいたと思います。サギはその1/3位です。人の居る場所から300m位離れた場所で待機していました。これほどのウの大群を見たのは初めてです。

昨日からキープしていたオトリは4尾とも元気でしたので、鮎釣り続行です。今朝、私達の車の処にきた現地の人の話では、朝7時頃に、へちを朝登りする鮎を狙うのが良いとのことでした。時既に7時を回っていましたが、遅刻気味の鮎を狙って水深20cm程のへちを泳がせていると2尾かかりました。大きさは、それぞれ18cmと16cm位でした。9時頃から瀬に入れてみましたが、全くあたりが当たりがありません。11時頃にはおとりがへばったので止めました。

娘婿のほうは、初めての鮎を1尾掛けて、それをオトリにして泳がせていたところ、ナマズが掛かって仕掛けごと持って行かれたそうです。そういうことも偶にある話です。

11時頃川から上がって早めのランチにしていたところ、雨が降りだして戦意を喪失したので、帰宅することにしました。

帰り際に、三三大橋の下の釣り場に行く道を探してウロウロしましたが、狭い道だったので断念しました。吉野川は、河川敷が広い割には、河川敷に入る道があまり無いように感じました。その点、九頭竜川には河川敷内にコンクリート舗装された道路が整備されているので、良くできていると思います。

帰宅してから、次の釣行計画を練っていたところ、早くも秋雨前線がやってきたようで、雨マークの日が多く、九頭竜川には行けそうにないみたいです。近場ならなんとか二三日の釣行ができるかもしれません。でも何処の川がつれるのかの情報も乏しく困ったものです。

8月18日 ハイエースのリアハッチストッパー

昨夜は涼しくて気持ちよく眠れました。自作ウェザーステーションのデータを見ると、最低気温が20℃を少し下回っていたので、涼しい訳です。涼しかった7月中旬並みの気温に戻ったようです。

涼しくなったので、頑張って草刈りをしました。午前中に燃料タンク2杯分、午後4時から1杯分と普段の3倍もやっちゃいました。家にいれば居て、することはあるのですが、なんとかもう一度鮎釣りに出かけたくて画策しています。

昼間は、ハイエースのオーニングを全開にして干しました。何しろ、吉野川遠征では結構雨に降られましたので、びしょびよでした。この間、オーニングの下で、仕掛けを作ったりして家に居ながら、鮎釣り遠征気分を楽しんでいます。



さて、タイトルのリアハッチ用ストッパーですが、ネットで検索すると色々な方式のモノがあります。私の自作したものを紹介したいと思います。

暑い夏の夜に車中泊する時は、可能であればリアハッチを全開にして寝ます。扇風機の風に当たればそれなりに涼むことができます。希望ですが、来年の夏までにはバッテリー駆動できるスポットエアコンを積みたいと思っています。

リアハッチが全開できないような場所(例えば高速道路のPA/SAなど)では、リアハッチストッパーが役立ちます。リアハッチの(Spring)が効いているので、ロープで引っ張って途中で留めています。金具をハッチと車内の2か所に取り付けて、フックで引っかければOKです。





私の場合、フックの代わりにターンバックル(片方が輪になっているヤツ)を使っています。これには訳があって、もう一つの用途に使うためです。もう一つの用途と言うのは、防犯機能を備えたリヤ

ハッチストッパーとしての役割を果たすためです。

上の写真に示すように、ターンバックルのフックとリヤハッチ側の金具の間をシャックルで接続します。適切な隙間を確保するために、リヤハッチと車体の間に木製のスペーサーを差込んでいます。このスペーサーが外れても、ターンバックルのフックが外れることはありません。なので、悪意を持った輩がリヤハッチから侵入することを阻止します。

難点は、ロック・アンロックは車内からしかできないことです。ロック・アンロックはシャックルを付けたり外したりして行います。

何故、このような隙間を確保したいのかと言うと、昼間、鮎釣りに出かけている間に、閉め切っていると車内の温度が上昇するからです。今年から車内に冷凍庫を設置しているので、冷凍庫の排熱も出てきて余計に車内が温まります。これを防止するために、天井ファンを回しっぱなしにして換気していますが、吸気のためにリヤハッチに隙間を作っているのです。

8月19日 高津川遠征初日

天気予報を見ると、今月末は雨マークが並んでいたもので、「鮎釣りに行くなら今しかないでしょ！」と思うと居ても立ってもおられなくて18日夜遅くになって積み込みを開始して高津川に向けて出発しました。ハイエースにガソリンすら入れていなかったもので、24時間営業のGSを検索して、総社IC近くの岡山市門前のGSに立ち寄りしました。

いつもなら、新見ICから中国道経由で浜田道を通って益田市に出ますが、今回は総社ICで高速に乗って、岡山道・山陽道・広島道・中国道を通って六日市ICで降りて津和野町(日原)に達しました。少し余計に高速道路料金が掛かりました仕方ありません。

朝7時頃には、日原の道の駅に到着しました。途中、高津川の様子を見ながら来ましたが、濁りはありませんでしたが、いつもより水嵩が増しているようです。宮島オトリの宮島さんに話を聞くと、二三日続けて雨が降ったとのことで、「今日は無理かも・・・」と言われましたが、天気は良いし、折角来たので安全な場所を選んで川に入ることにしました。宮島オトリにはオトリが無かったので、漁協の本所に行って、年券とオトリを仕入れて、彼方此方川を見て回りました。



高津川に来るのは五六年振りです。川の形がかなり変わっていました。水嵩が増しているため、釣り人はあまり見かけませんでした。結局、支流の匹見川の豊川発電所下流のチャラ瀬に入りまし

た。最初の1尾目は直ぐに掛かったのですが、大きい訳でもないのにミスキャッチしました。川は澄んでいて、掛かればキラッと光ります。こんな釣りは久しぶりです。

宮島さんの話によると、匹見川では1m程も水位が上がったということなので、垢が飛んでいるのか瀬ではあまり掛かりませんでした。

途中で昼寝もしましたが、4時頃まで遊んで、20尾の釣果でした。噂通り、今年の高津川は良く釣れるようです。しかし・・・型が小さいです。大きくても20cmで小さいのは10cm位のまで居て、オトリ交換する困難なサイズのもので1/3位は居ました。

まあ、きれいな水に浸かって川遊びができて満足です。

8月20日 高津川のモクズガニ

今日は本流で竿を出してみました。場所は、曾庭橋上流の専用区の下流端です。ここは、以前から好きなポイントの一つなのです。しかし・・・全然釣れません。歩き回っていると、水位がここまで上がったんだという証拠が彼方此方にありました。今日の水位よりも約4mは高かったようです。そういえば、道の駅の裏手の広場にも泥が積もっていました。やはり白川になったようです。石を触ってみると、薄い苔の感触があるので、やっと苔が着き始めたのかもかもしれません。

早めに切り上げ、宮島オトリに寄って、モクズガニを買いました。これを手土産にして、義母が一人で暮らす妻の実家に行きました。



塩ゆでにして、ビールの当てにしました。雄は爪が大きいので、その肉を食することができますし、雌は卵を持っているので、それを味わうことができます。どちらも美味ですが、私は雌の卵の方が好きです。

8月21日 高津川は増水&濁流

今朝は6時に起床。義母と朝食を一緒にして、もろもろの準備を済ませて8時頃には鮎釣りに向けて出発しました。出る時には、「今日も帰ってくるよ！行ってきまーす！」と言って出かけたものの、横田大橋を渡る時に高津川を見ると・・・なんと増水して濁流になっているではありませんか！なんで？昨夜は熟睡していたので、雨が降ったかどうかさえ記憶がありません。



漁協本所でオトリを仕入れるまでもなく、急遽帰宅することを決意しました。写真は、高津森林組合のあたりから見た匹見川の様子です。そのまま9号線を益田に向かって山陰道・浜田道・中国道を経由して、12時過ぎには帰宅しました。1週間位は滞在するつもりで、年券まで買ったのに～！悔し～い！！それにしても片道4時間のドライブは疲れました。ドライブのために余計に時間とお金と体力を使ってしまいました。

あまりに悔しいので、もう一度行けるものなら行きたいと思って、釣りができた日の水位や現在の水位などをネットで調べました。こうしておけば、オトリ屋さんに電話しなくて、データを見て判断できるでしょう。

・高津川水系 高津川 神田観測所

8月20日(土) 17:00 0.49m この日は曾庭橋上流で釣りができた

8月21日(日) 08:00 1.82m ピーク水位

8月21日(日) 13:26 1.58m

・高津川水系 匹見川 隅村観測所

8月19日(金) 17:00 1.30m この日は豊川発電所下流で釣りができた

8月20日(土) 17:00 1.11m

8月21日(日) 04:00 2.52m ピーク水位

8月21日(日) 08:00 2.41m

8月21日(日) 13:26 2.10m

前回と昨夜の雨についても島根県が公表しているデータを見て調べました。

左鑑で18日0時までの24時間累計雨量が116mmだった(17日までの24時間累計雨量は不明)

左鑑で21日6時までの24時間累計雨量が65mmだった

10日間天気予報を見ると、雨の日が多そうです。水位が下がったのを見計らって釣りに出かけ

でも、今回のように直ぐに撤収ということになりかねません。実にトホホな年です。

8月22日 無線小屋周辺の草刈り

天候不順のため鮎釣りに行けるのか行けないのかはつきりしません。もしも行けなかったらと考えると、秋冬の趣味＝アマチュア無線でもやろうかなあ・・・と思いました。無線は夏の間は全くやらないので、無線小屋の周りは草ぼうぼうです。無線小屋で過ごせるように、草刈りをしました。



無線小屋の入り口付近は木陰になっていたのではなにかかりました。アンテナの下も草刈りをしようとしたが、あまりの暑さにギブアップしました。また、涼しい時間帯を選んですることにしましょう。

8月23日 ブドウの試食

近頃は曇りの日が多くて、日照時間が短く、稲や果樹などにとっては好ましくないと思います。ブドウの収穫直前の時期にお日様に頑張ってもらいたいと願っているのですが、残念です。そこで、ブドウを採ってきて糖度を計ったり、試食して食味を試してみることにしました。

シャインマスカットは未だ無理だろうと思うので、またの機会にすることにして、安芸クイーンとピオーネを一房ずつ採ってきました。



今年の安芸クイーンは色付きもよくて、これまでで最高の出来です。糖度を計ってみると、なんと19度もありました。安芸クイーンらしい香りにしっかりとした食感があり甘くて美味しい～！



ピオーネも良い色に仕上がっています。糖度は18度でしたので、出荷基準は十分にクリアしています。酸味は感じませんでした、ピオーネ独特の甘～い感が少し足りないような感じなので、少し酸味が残っているのかもしれませんが。

出荷は、9月5日頃から開始する予定なので、曇りの天気が続いても糖度は大丈夫そうです。しかし、雨が降り過ぎると、ピオーネも安芸クイーンも裂果が心配なので、雨は程々にして欲しいものです。



8月24日 第2次高津川遠征 初日

9月に入ればブドウの収穫作業があるので、鮎釣りに行けるのは8月一杯までです。家で草刈りなどをしていても、落ち着きません。昨夕7時に家を出て、高津川に向かいました。途中、浜田の道の駅で仮眠をとっていたところ、未明3時頃から雨が降り始めました。6時頃起きて、ネットをチェックして川の水位を確認しましたが、匹見川の上流部では降雨がなかったようで、水位は同じレベルを保ったままで、釣りができるレベルでしたので、安心して横田の漁協本所に寄ってオトリを仕入れて匹見川に向かいました。

ポイントは前回と同じ豊川発電所下流です。天気は雨上がりの曇り空で、あまり鮎釣りに適しているとは言えず、釣り人は私一人でした。8時における水温は20℃でした。この時は川霧はありませんでしたが、10時頃から川霧が立ち込めてきましたので、冷たい空気が入ってきたのでしょうか。

釣果の方はまあまあで、22cmを頭に約20尾でした。高津川に来た甲斐がありました。



余談ですが、毎年ブドウを買ってくれる、総社市に住む中学校時代の同級生の女子からの情報では、今年は高梁川で鮎が沢山捕れているらしいのです。高梁川には一度も行ったことがありませんが、高梁市や総社市なら、我が家から30~40分で行けるのに…

8月25日 第2次高津川遠征 サラバ

朝8時頃に義母の家を出て、昨日釣ったポイントに行きました。出かけた頃から小雨が降り始めていて、釣り場に着くと先行者が1名、既に川に入っていました。ぐるっと上流の長沢トンネルまで車で見て回ると、小雨ながら鮎釣りファンが川に入っているを見かけました。匹見川は川幅が狭く、入川できる場所が限られているので、一瀬一人のような川なのです。サラバにあたれば爆釣するかもしれませんが、前日に人が入ったような場所だと寂しい釣果になることがしばしばです。

雨が降っているとやる気が湧いてきません。雨雲レーダーを見ると10時頃には上がりそうだったので、社内で仕掛けを直して様子を見ることにしました。暫くすると、先行者の釣り人が川から上がって来られたので、オーニングを出して雨よけにし、話をしました。寒くて上がって来られたようです。匹見川では場所取りのために、早朝から釣り場に行くのが常だと言われていました。

11時頃には雨が上がったので、出動しました。昨日、釣り残したポイントがあったので、そこに直行しました。思った通り、そこはサラバだったようで、入れ掛かりという程ではないにしても、鮎が付いていそうな場所では反応がありました。昼飯は後回しにして、サラバとおぼしきポイントを一流して、2時頃川から上がりました。良型ばかり約15尾釣れました。昨日釣ったポイントもサラバだったのでしょね。

昼食後、下流に歩いて行って釣ってみました。ここには、昨日釣り人が入っていましたので、あまり釣れませんでした。鮎釣りというのはこんなものなのかもしれません。あまりにも釣れないので、3時過ぎには川から上がって帰りました。

8月26日 第2次高津川遠征 本流

匹見川というのは駐車できるポイントが限られているので、本流に行ってみました。8時頃には、目ぼしいポイントにはそれぞれ車が止まっていました。前回の釣行で全然釣れなかった池村洞門の下に入ってみました。前回よりも30cm程も水位は低く、澄んだ水で、垢も付いていそうな感じですが、鮎の反応はイマイチでした。池村洞門下端の大岩の上には、鶺鴒が3羽止まっていて、時折羽を広げていました。どうやら、此処を餌場に行っているようです。

曾庭橋の前後には釣り人が見えなかったもので、川の中を歩いて下りました。距離にして300mか400mあると思います。曾庭橋の少し下流の白泡では、そこそこ掛かりました。その頃既に1時半を回っていたので、車まで徒歩で帰るエネルギーが切れてしまわない内に川から上がりました。

昼食の後、オトリ缶を回収して、向横田大橋の右岸側に車を止めて川に入ってみました。橋の上からは遊び鮎が沢山見えますが、鏡になっているので人が近づくと散ってしまうのか、全然釣れません。流れのある所に入れて暫くやってみました。小振りの鮎が2尾釣れたのみでした。

8月27日 第2次高津川遠征 撤収

今日で高津川への遠征も4日目。少々疲れ気味&飽き気味なので、朝、義母の家を出る時、「今日は家に帰るからね」と宣言して来ました。神田大橋の上流に入ろうかと思って現場に行くと、

既に車が3台も止まっていたので、急遽予定を変更して匹見川との合流点の下流に行きました。車が1台止まっていたのですが、それくらいなら大丈夫だと判断してポイントを決めました。

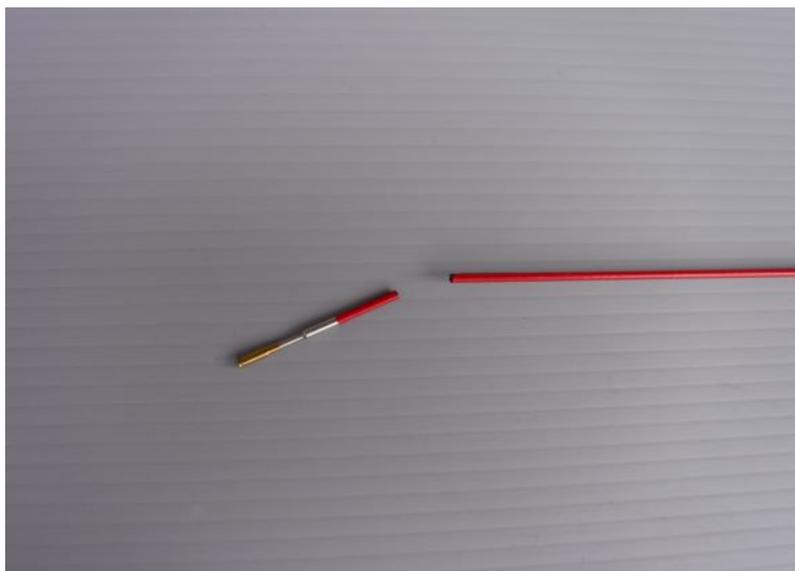
此処の上下のプールには鵜や鷺が沢山いました。それも一因だと思いますが、あまり釣れませんでした。先に入っていた釣り人は、10時頃には上がったようです。



こういう場所でしっかり釣れば、車も余裕で止められて楽なんですけど・・・現実はずっと上手くはいきません。

今年の鮎釣りもこれが最後かなあ？と思いながら午後2時頃には川から上がって、車の中で昼寝しました。今日は土曜日なので、昼間に走っても割引が効くので、そろそろ帰途に就くつもりです。

8月28日 穂先を折ってしまいました



先日高津川に遠征していた時、釣りを終えて竿を仕舞う時に、穂先を折ってしまいました。不注意で穂先を折ったのは、これで2回目です。以前は、穂先が少し出ている状態でキャップ

を締めて穂先を折ったことがあります。今回は、ラインを取り外す際に、力を掛けてしまった事が原因で穂先を折ってしまったのです。この竿は10年以上前に購入した竿なので、既に廃番になっていてスペア部品などを注文することは叶わないでしょう。穂先を自分で修理するか、何か適当な穂先をあてがうというのが順当な手段です。この竿は気に入っていて長年愛用しています。

DAIWAのProject Win 銀影競技 AirMaster 早瀬 9mです。匹見川や高津川で使うには丁度手頃な感じですが。九頭竜川でもトロ場にはもってこいです。

手を抜いた雑な修理方法としては、穂先にテープを巻いて、ラインが上下に逃げないようにしておくという手があります。応急修理的にはこれで良いかも知れませんが、ちょっと不満が残ります。修理方法を色々考えてみました。

①チューブラ穂先なので、中に竹か爪楊枝などで芯を入れて、上からカーボン繊維にエポキシ樹脂を含浸させたもので巻く

②回転トップなどの部品を購入して、それを刺してエポキシ樹脂などで接着する

③リリアンを穂先に刺してエポキシ樹脂などで接着する

④替え穂先を購入する

⑤手持ちの穂先で適合するものを流用する

この中で最も安直なのは⑤の方法です。ということで、手持ちの部品を色々物色したところ、BINGOなものがありました。実は、この竿はお気に入りです。過去に2本購入したことがあります。その穂先が完全な形で手元に残っていたのです。折角そういうものがあるので、これを使わない手はありません。ということで一件落着。色々考えた修理案は全て廃案です。



8月29日 アナグマの仕業か？

昨日ブドウ園に行って、2回目の防除⑨の準備をしていたところ、収穫適期を迎えた安芸クイーンやピオーネの袋が獣にやられているのに気づきました。多分、アナグマの仕業です。放置しておくともものように獣の餌食になってしまう恐れがあります。また、今週半ばから1週間程雨の予報なのも気掛かりです。



安芸クイーンは、雨が降ると裂果する心配がありますし、樹の本数が2本と少ないためうちでは希少なので、全部収穫してしまうことにしました。こうすれば獣や裂果の心配もなく安心です。全部で300房強ありましたが、約10房は獣にやられていました。

ピオーネの樹は沢山あるので、少々獣にやられてもどうということはないのですが、やられないに越したことはありません。アナグマがブドウの樹に登れないように、午後からポリカ製の波板を幹に巻き付ける作業をしました。

8月30日 ブドウ収穫前のデスクワーク

予約注文の注文書が、郵便やFAX、メール、電話などで続々と届いています。有難いことです。それらのデータをOpenOffice Calcに入力しています。そのデータからゆうプリRのデータに変換して、送り状を印刷する予定です。現在届いている注文書の約半分のデータが入力できたところです。収穫開始までには、全部のデータを入力したいところです。9月に入ると雨マークばかりの天気予報なので、心配しなくても野良仕事はできそうにないので、デスクワークに専念できそうです。

8月31日 ピオーネの色比べ

ピオーネの棚が2つあって、一つの棚は色付きが良いのですが、もう一つの棚は色付きが毎年今一つ良くないのです。その原因は、遅伸びすることにあるのではないかと考えていて、今年はフラスター液剤を散布しましたが、散布する時期が遅かったのか、期待した効果が無かったように感じています。そこで、遅伸びする棚に2つの対策をしました。1つはビニールを7月下旬に除去するという策で、もう一つは環状剥皮という策です。いずれの策が効果があったのか比較してみることになります。

比較のために、①ビニールを除去した枝、②環状剥皮した枝、③何も対策しなかった枝、④毎年色付きの良い枝の4つの写真を見比べることにします。写真は番号の順に以下に掲げます。

私の主観による評価では、④が最も色付きが良く、続いて②、①、③の順になりました。環状剥皮は、やはり効果があるようです。ビニール除去も何もしないよりは黒くなるという結果が得られまし

た。



